

2023年5月7日

復活節第5主日

菊地功大司教 メッセージ

「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、誰も父のもとに行くことができない」

私たちの主イエスは、すでにできあがっている地図に基づいて道を案内してくれるいわばカーナビのガイドなのではなく、ご自分こそが何も無いところに新たに切り開かれていく「道」そのものであるのだと、自ら宣言されます。

すなわち、御父へと至る道は、すでに存在している道ではなくて、新しい道、しかもイエスご自身が先頭に立って切り開いて行かれる新しい道であります。イエスは、その新しい道こそ真理であり、そこにこそいのちがあるといわれます。わたしたちは、すでにあり、よく知っているからこそ、不安なくたどることのできる道に安住しがちであります。すでによく知っているからこそ、そこにこそ安心があり、いのちがあると思ひ込んでしまいます。しかし主は、常に新たにされる道であるご自身を、ともにたどるように、招いておられます。未知への旅立ちを促します。

わたしたちは御父へと至る道を、一人で勝手に歩むことはできません。イエスご自身しか、その新しい道を知らないからです。ですからイエスに付き従って、歩み続けなければなりません。そのためにもイエスがともにおられる、共同体の存在は不可欠なのです。「わたしのいるところに、あなた方もいることになる」と、福音に記されているように、主は信仰の共同体とともにおられます。わたしたちが歩むいのちに道は、共同体の交わりの道であります。

初代教会が発展してきた頃に、その実際の運営を巡って対立と混乱が生じたと、使徒言行録に記されています。そこで教会共同体は進むべき道を識別します。教会の新たなあり方を定めていったのです。聖書に記された教会の最初の改革です。神の言葉を告げしらせることこそ優先すべきことであると識別した教会は、そのための制度を整えたこと

で、さらに発展を遂げていきました。

現代を生きる教会も、「神の言葉をないがしろにして」はなりません。神の言葉をさらに多くの人たちに告げていくために、教会のあり方を常に見直す必要があります。シノドスの道はそのことを求めています。いま教会は変革のときにあります。